



## 2023年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年3月10日

上場会社名 株式会社シルバーライフ 上場取引所 東  
 コード番号 9262 URL <https://www.silver-life.co.jp/>  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 清水 貴久  
 問合せ先責任者（役職名） 取締役管理部長（氏名） 増山 弘和 (TEL) (03) 6300-5629  
 四半期報告書提出予定日 2023年3月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年7月期第2四半期の業績（2022年8月1日～2023年1月31日）

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年7月期第2四半期	6,015	10.4	417	33.6	507	32.8	317	24.6
2022年7月期第2四半期	5,450	11.5	312	△49.0	382	△43.1	254	△39.0
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2023年7月期第2四半期	29.40		29.00					
2022年7月期第2四半期	23.63		23.23					

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年7月期第2四半期	9,217	5,625	61.0
2022年7月期	8,859	5,304	59.9

(参考) 自己資本 2023年7月期第2四半期 5,625百万円 2022年7月期 5,304百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年7月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年7月期	—	0.00			
2023年7月期(予想)			—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年7月期の業績予想（2022年8月1日～2023年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,700	13.2	700	24.7	860	21.2	550	36.9	50.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年7月期2Q	10,810,800株	2022年7月期	10,792,400株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2023年7月期2Q	422株	2022年7月期	399株
------------	------	----------	------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年7月期2Q	10,801,627株	2022年7月期2Q	10,781,127株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(第2四半期累計期間)	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(持分法損益等)	8
(セグメント情報等)	8
(1株当たり情報)	9
(重要な後発事象)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、政府による感染防止と経済活動の両立に向けた行動制限緩和等の施策が浸透し、緩やかな景気の持ち直しが進んでおります。

一方で、ロシアのウクライナ侵攻等に伴う原材料価格の高騰や為替相場の急激な変動等、依然として不透明な状況が続いております。

当社の属する高齢者向け配食サービス市場におきましては、高齢者人口及び一人暮らし高齢者世帯の増加を背景に、市場は引き続き拡大傾向が続いております。また、2025年からは団塊の世代が当社のメイン顧客層である後期高齢者になることから、更なる拡大が予測されております。

このような状況のもと、当社におきましては、工場及び物流センターにおいて、前事業年度まで続いていた大型投資が終了し、製造・保管能力が大幅に強化されたことから、積極的な販売促進活動を行うことで売上拡大に努めてまいりました。

製造面については、材料費が上昇傾向にある中、2022年10月より一部冷蔵商材の自社製造への切り替えを進めたことで、売上総利益率は改善いたしました。今後も更なる自社製造への切り替えを検討しており、より一層の効率化を目指します。

販売管理費については、加須物流センターが2022年3月より稼働を開始したことにより、ピッキング等の外部委託にかかる業務委託費が減少した一方で、人件費や減価償却費等が増加しております。

また、自社製造切り替えによる運賃の増加、FC契約やEC販売の促進活動による広告宣伝費の増加等により、売上高販売管理費率は高まりました。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は6,015,308千円(前年同四半期比10.4%増)、営業利益は417,312千円(同33.6%増)、経常利益は507,264千円(同32.8%増)、四半期純利益は317,575千円(同24.6%増)となりました。

販売区分別の経営成績は、次のとおりであります。

#### ① FC加盟店

フランチャイズを展開しているFC加盟店の店舗数は、「まごころ弁当」は前事業年度末より10店舗減少、「配食のふれ愛」は23店舗減少、「宅食ライフ」は18店舗増加したことで、店舗数は前事業年度末より15店舗減少し975店舗となりました。

高齢者人口の増加に伴い、市場の需要が高まってきていることに加え、当社スーパーバイザーの営業指導も奏功し、当第2四半期累計期間の売上高は4,293,275千円(前年同四半期比7.6%増)となりました。

#### ② 高齢者施設等

当社におきましては、高齢者施設向け冷蔵食材販売サービスである「まごころ食材サービス」と、冷凍食材販売サービスである「こだわりシェフ」及び「おてがるシェフ」を展開しております。

高齢者施設向け食材の販売では、既存施設においても人手不足、合理化の一環でサービスの外部委託が増加する傾向にあります。合理化が進むなかで、冷蔵食材から、利便性の高い冷凍食材へ切り替わっている傾向にあることから、営業活動は冷凍食材を中心とした新規営業及び既存納入先の冷凍への切り替え営業を進めてまいりました。

この結果、高齢者施設向け食材販売における当第2四半期累計期間の売上高は645,075千円(前年同四半期比1.8%増)となりました。

#### ③ 直販・その他

ECを主体とした冷凍弁当の直接販売(BtoC)では、これまでの「まごころケア食」に加えて、2023年1月より健康志向で幅広い年齢層に向けて開発された冷凍弁当「きくばりべんとう」の販売を開始いたしました。

WEB広告等の販促活動を積極的に取り組んだ結果、売上が増加いたしました。

OEM販売(BtoB)では、既存取引先の受注数が増加したことにより、売上は増加いたしました。今後も継続的な新規取引先の開拓を行ってまいります。

2022年4月より開始した倉庫業は年末に向けて需要が高まり、売上は増加いたしました。

この結果、直販・その他販売における当第2四半期累計期間の売上高は1,076,958千円(前年同四半期比30.1%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (流動資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は、前事業年度末より325,280千円増加し、3,557,868千円となりました。

これは主に、現金及び預金が258,638千円、冷凍弁当の製造増加に伴い商品及び製品が102,205千円、それぞれ増加したこと等によるものであります。

### (固定資産)

当第2四半期会計期間末における固定資産は、前事業年度末より32,767千円増加し、5,659,705千円となりました。

これは主に、加須物流センターにおいて、機械等の導入を計画していることにより建設仮勘定が71,802千円増加し、建物が40,951千円減少したこと等によるものであります。

### (流動負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は、前事業年度末より157,817千円増加し、1,565,334千円となりました。

これは主に、未払金が103,526千円、未払法人税等が148,592千円、それぞれ増加し、買掛金が69,761千円減少したこと等によるものであります。

### (固定負債)

当第2四半期会計期間末における固定負債は、前事業年度末より120,550千円減少し、2,027,080千円となりました。

これは主に、長期借入金が119,700千円減少したこと等によるものであります。

### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末より320,780千円増加し、5,625,158千円となりました。

これは主に、利益剰余金が317,575千円増加したこと等によるものであります。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前事業年度末より258,638千円増加し、1,733,483千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、629,284千円(前年同四半期は720,840千円の獲得)となりました。

収入の主な内訳は、税引前四半期純利益507,251千円、減価償却費322,564千円であり、支出の主な内訳は、棚卸資産109,394千円であります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、253,790千円(前年同四半期は1,092,913千円の使用)となりました。

支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出197,819千円、無形固定資産の取得による支出77,749千円であります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、116,855千円（前年同四半期は383,316千円の獲得）となりました。

収入の主な内訳は、ストックオプションの行使による収入3,241千円であります。支出の主な内訳は長期借入金の返済による支出119,700千円であります。

(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年7月期の業績予想につきましては、2022年9月13日付けの「2022年7月期 決算短信」で公表いたしました業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年7月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,474,844	1,733,483
売掛金	1,019,139	926,597
商品及び製品	287,792	389,998
原材料及び貯蔵品	28,053	35,242
その他	481,462	536,085
貸倒引当金	△58,705	△63,538
流動資産合計	3,232,587	3,557,868
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,016,529	2,975,578
機械及び装置(純額)	1,305,483	1,273,986
建設仮勘定	-	71,802
その他(純額)	767,050	793,189
有形固定資産合計	5,089,063	5,114,556
無形固定資産	329,146	361,413
投資その他の資産		
その他	223,394	198,993
貸倒引当金	△14,666	△15,258
投資その他の資産合計	208,727	183,734
固定資産合計	5,626,937	5,659,705
資産合計	8,859,525	9,217,573
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	570,916	501,154
契約負債	11,458	10,058
リース債務	720	720
未払金	403,436	506,962
1年内返済予定の長期借入金	239,400	239,400
未払法人税等	54,512	203,104
株主優待引当金	61,527	13,423
その他	65,544	90,510
流動負債合計	1,407,517	1,565,334
固定負債		
長期借入金	1,951,450	1,831,750
リース債務	2,762	2,402
その他	193,417	192,927
固定負債合計	2,147,630	2,027,080
負債合計	3,555,147	3,592,414
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	725,645	727,266
資本剰余金	715,645	717,266
利益剰余金	3,864,006	4,181,582
自己株式	△919	△956
株主資本合計	5,304,378	5,625,158
純資産合計	5,304,378	5,625,158
負債純資産合計	8,859,525	9,217,573

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年8月1日 至 2022年1月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)
売上高	5,450,333	6,015,308
売上原価	4,068,227	4,194,233
売上総利益	1,382,106	1,821,075
販売費及び一般管理費	1,069,834	1,403,763
営業利益	312,271	417,312
営業外収益		
受取利息	6,146	6,483
受取補償金	61,705	81,141
その他	23,884	24,365
営業外収益合計	91,736	111,990
営業外費用		
支払利息	2,615	2,354
賃貸費用	12,961	9,146
貸倒損失	4,003	1,630
貸倒引当金繰入額	2,281	2,360
減価償却費	-	5,718
その他	31	827
営業外費用合計	21,894	22,038
経常利益	382,114	507,264
特別利益		
固定資産売却益	22,900	-
特別利益合計	22,900	-
特別損失		
固定資産除却損	7,090	13
特別損失合計	7,090	13
税引前四半期純利益	397,923	507,251
法人税、住民税及び事業税	110,747	186,870
法人税等調整額	32,388	2,805
法人税等合計	143,135	189,675
四半期純利益	254,788	317,575



## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年8月1日 至 2022年1月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	397,923	507,251
減価償却費	279,603	322,564
貸倒引当金の増減額(△は減少)	2,739	5,425
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△8,922	△48,104
受取利息及び受取配当金	△6,146	△6,483
支払利息	2,615	2,354
有形固定資産売却損益(△は益)	△22,900	-
有形固定資産除却損	7,298	13
売上債権の増減額(△は増加)	71,312	92,542
棚卸資産の増減額(△は増加)	△55,397	△109,394
仕入債務の増減額(△は減少)	8,150	△69,761
未払消費税等の増減額(△は減少)	322,177	32,210
契約負債の増減額(△は減少)	△1,558	△6,096
その他	△101,831	△50,804
小計	895,064	671,715
利息及び配当金の受取額	6,146	6,483
利息の支払額	△2,559	△2,286
法人税等の支払額	△177,812	△46,627
営業活動によるキャッシュ・フロー	720,840	629,284
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,115,653	△197,819
有形固定資産の売却による収入	65,000	-
無形固定資産の取得による支出	△43,450	△77,749
貸付けによる支出	△7,150	△630
貸付金の回収による収入	7,970	6,719
敷金及び保証金の差入による支出	△89	△207
敷金及び保証金の回収による収入	135	13,205
その他	325	2,692
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,092,913	△253,790
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	500,000	-
長期借入金の返済による支出	△119,700	△119,700
自己株式の取得による支出	-	△36
リース債務の返済による支出	-	△360
その他	3,016	3,241
財務活動によるキャッシュ・フロー	383,316	△116,855
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	11,242	258,638
現金及び現金同等物の期首残高	1,472,438	1,474,844
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,483,681	1,733,483

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、これによる四半期財務諸表に与える影響はありません。

(持分法損益等)

関連会社がないため該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、食材製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2021年8月1日 至 2022年1月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	23円63銭	29円40銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	254,788	317,575
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(千円)	254,788	317,575
普通株式の期中平均株式数(株)	10,781,127	10,801,627
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	23円23銭	29円00銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	186,192	150,354
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。